

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

新エネルギー委員長 中島稔

両団体専務理事 清原淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第314回)

日時 平成29年9月7日(木) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、放射光を用いた燃料電池白金系正極触媒の劣化解析と

非白金炭素系触媒の解析

解説 尾嶋正治東京大学名誉教授

3、『新エネルギー関連ニュースNO.168』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る7月4日開催の第313回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題して開会挨拶がありました。日本は再生可能エネルギーで後れを取っているという記事を読みショックを受けている。再生可能エネルギー買取制度開始から10年になろうとしているが、買取価格は年々下落し、買取停止の可能性もある。原因の一つに、再生可能エネルギーの電圧や周波数の不安定さにより、電力会社側が買取拒否をしていることが挙げられる。諸外国では再生可能エネルギーの比率が高まっ

てきている中で、日本だけが取り残されているような印象を受ける。

次に、清原淳平専務理事より、本日の講師・太田啓之東京工業大学生命理工学部教授の経歴紹介がありました。次に、太田教授より、「藻類オイルの効率的生産」について解説をいただきました。植物は、光合成は葉で行い油脂は種子でためるが、藻類は同じ細胞内で行うことから、植物よりも効率が良い。特にナンクロロプシスという物質は、総重量の6割が油脂になる、細胞が小さく増殖が速い、海水で生育できるので培養液のコストがかからないなどの利点がある。脂肪酸組成がガソリンに近いことから、自動車用の燃料として有望である。さらに、植物も栄養が不足すると成長を抑えて油脂をためる性質があるが、藻類もリンを意図的に欠乏させると、光合成の回数を減らし油脂の回収量をさらに上げる研究にも取り組んでいる。次に、どの遺伝子が油脂合成に重要な働きをしているかを調べた。調査の結果、遺伝子が判明し、他の研究室が行っている遺伝子組み換え技術との合同により、さらに高効率なプロセスを研究している。ただ、現在は試験管レベルの話であり、現状のコストは10800円である。現在石油が10120円で売られていることを考えると、今後どれだけコストを下げているかが研究課題となってくる。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.167』の解説がありました。今回は、○一酸化炭素で発電できる燃料電池触媒。水素と一酸化炭素を同量ずつ含むガスでも、燃料電池は正常に働いた。白金に比べて発電量は落ちるが、燃料電池車のコスト問題解決の第一歩となるか。○IoTに使うセンサーの消費電力を低減できる電子回路の開発。○水素関連市場は東京五輪を契機に32倍に拡大すると予測される。○再生エネルギーでアンモニアを合成。低温でも反応が起きる仕組みを解析。○竹を利用したバイオマス発電。竹を燃焼させると出る成分が炉を傷めていたが、その物質発生を抑制することに成功した。○三次元物理探査船「資源」の後継船開発費用に経産省が200億円を計上、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。

次回、9月7日(木)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の会費は三千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp

当日連絡先 080(8836)6203 (重田) 080(9292)2620 (高津)